



京都地本ニュース

J R 西労組

No.398 2025年8月1日

西日本旅客鉄道労働組合 京都地方本部

発行責任者: 藤森 健二

編集責任者: 濱本 祐輔

〒600-8216 京都市下京区烏丸通塩小路下ル東塩小路町
(京都駅構内 旧忘れ物センター2階) 電話NTT075-342-0850

酷暑に負けない熱い想いを福岡で！



川端書記長



高田執行委員
(新任)



林執行委員
(退任)



岡本副執行委員長 全体質疑

第37回中央本部定期大会が7月16日(18日)の3日間、福岡アイルランドシティで開催されました。今回は役員改選の大会でもありました。京都地本関係では、林次長が退任され、川端副執行委員長が書記長に、京都保線区の高田さんが新たに執行委員に選出されました。

第37回定期中央
本部大会開催！

安全について

京都地本として今年3月12日に湖西線おごと温泉・堅田間で電力作業中に墜落労災を発生させ、組合員が腰の骨を折る重傷を負いました。幸いにも現在は、術後順調に快癒し、復職も間もなくと聞いております。社会人採用者への安全教育が最低限かつ現場OJTに任せきりになっているのではないかと考えます。雇い入れた社員の安全教育は、企業の責任であり、本社の基準を持って、研修センターでの教育が重要ではないかと考えます。

心理的安全性について、安全管理体制第三者評価報告書の中で、2023年1月24日に発生した京滋地区の大雪に起因する事象が、大きな関心を集めたところです。一部抜粋すると、「人員の確保には、会社運営上の人材確保と現場の実情とが乖離していないか、組織全体における当該リスクの大きさを公平に評価し、リスクの大きさに応じた判断と必要に応じた対策の実施と、その結果の見える化が期待される」と記載されていますが、このような内容はあらゆる交渉の中で、課題として挙げており、西労組の業速を読めば課題が分かると会社にお伝えいたしたいと思います。あえて大会議事に残るように発言しました。

業務課題、組織課題について

統括駅施策や大保線区化では本区や統括駅自体には人材が集まり、非管理駅や管理室自体の余力的な部分が少なくなっている中で、業務整理が上手いかず、それぞれの負担になっているのではないかと感じています。草津線柘植駅での乗務員による夜間休養前の清掃の提案では、部会分会を巻き込んで議論する中で、施策実施は見送られたものの、今後に向けて、西労組内での認識を合わせたいと思います。一方で施策にあたっては、会社側の準備不足感があり、課題提起に対して、納得感がある回答ができなかったものと考えます。組織課題に触れますが、この施策の議論を進める中で、当該分会から組合員の脱退、国労への加入という事象が発生しました。日頃の世話役活動を反省するとともに、施策への対応の見える化を改めて意識しているところです。

また20代の脱退については、新入社員の教育体制や、職場における労組対策に関する危機感の低下を反省するとともに、会社側の意識にも課題を感じています。さらに本年入社の新入社員が未加入の状態のまま、今日を迎えています。しっかりと職場の中で、業務を通じて、人間関係を築いていくことが、加入への道として、分会と連携し、諦めずに声をかけていきたいと考えています。

政治について

10月には、組織内議員である大伴長岡京市議の改選を迎えます。この1年は京都支部と連携し、認知度向上の取り組みを行ってきました。不定期ではありますが、夕刻の街頭行動や地元小学校区の全戸ビラのポスティング等、再選に向け、足元を固めてまいりました。地域に根付いた議員を作ることは、ひいては国政選挙の基盤にもなります。JR連合国会議員懇談会の泉ケンタ副会長の選挙区内です。引き続きしっかり対応できるよう、取り組んでいきます。